

開講年度・学期	2017年度・後期	授業形態	演習
科目名	演習論文（日本法制史）	科目ナンバー	JASEM3305
英語表記	Thesis Seminar on Legal History of Japan	担当教員	安竹 貴彦
単位数	2		
<b>科目の主題</b>			
近世および明治期の原典講読を通じた先行研究の整理と批判			
<b>授業の到達目標</b>			
同上			
<b>授業内容・授業計画</b>			
論文執筆を希望する学生が関心を有するテーマを確認のうえ、それに関する先行研究の現在の到達点をまず確認する。			
次に、可能であればそれに関する原典を、適当な原典が見出せない場合には、関連する既刊史料などをいっしょに読み、その作業を通じて、新たな論点を抽出する。			
最後に、その過程を文章化する作業を行う。			
※強制するものではありませんが、学部ゼミで輪読予定の史料を素材にいただければ、原典講読や解釈の手間は、幾分かは軽減されると思います。もちろん、明治もある程度進んだ時期にテーマを設定すれば、少なくとも「くずし字」ではなくなります。			
<b>事前・事後学習の内容</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関心のあるテーマに関する先行研究の抽出とまとめ。</li> <li>・ これに関する報告（レジュメや資料を使った）</li> <li>・ 原典（あるいは既刊史料）の解読と解釈</li> <li>・ 論文執筆作業とその修正作業</li> </ul>			
<b>評価方法</b>			
上記作業および完成した論文による総合的判断			
<b>受講生へのコメント</b>			
先行研究をまとめるだけでは、面白い論文にはなりません。また、歴史学の場合、史料の解読と解釈は不可欠な作業となります。どこまでできるかは分かりませんが、安竹といっしょに「史料に沈潜して考えることを楽しんで（苦しんで）みたい」と思う方の参加を歓迎します。			
<b>教材</b>			
特に指定しません。論文執筆を希望する学生と相談のうえで決定したいと思います。			
<b>その他</b>			
もし、より本格的な「近世文書解読の能力」や「あれこれ考え悩んでみる」体験をしてみたい方は、大学院ゼミへも顔を出していただければよいと思います。			
<b>履修可能最低年次</b>			
3年次生以上			